

26 井原西鶴像

天王寺区生玉町13-9

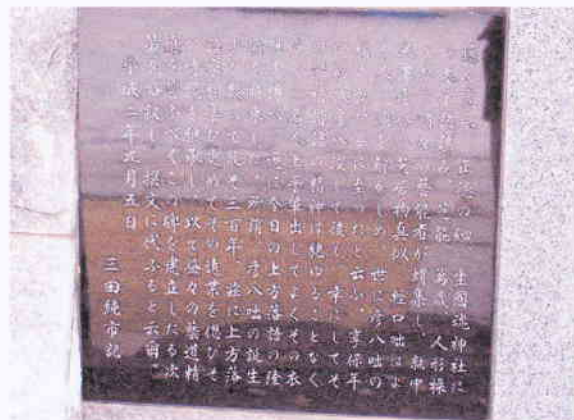
- ▶ 井原西鶴は寛永10年(1642)に大坂の裕福な家に生まれました。
本名は平山藤五といい、井原姓は母方の姓になります。
15歳の頃、俳諧に興味を持ち、号を鶴水と名乗り、各地の句会に顔を出します。
34歳の頃、妻を失い、失意の中で独吟千句を詠み、初めて句集を刊行しました。
43歳の時、住吉大社で開かれた「矢数俳諧興行」で23,500句をわずか一昼夜で詠むという驚異的な記録を残しています。
換算すると1分間に平均16句を詠んだ事になります。
生國魂神社境内においても「大矢数俳諧」を行い、一昼夜通して4000句を詠みました。
そのほか、「日本永代蔵」「世間胸算用」などの作品を残しています。元禄6年(1693)、52歳の時、亡くなりました。



27 上方落語発祥の地

天王寺区生玉町13-9

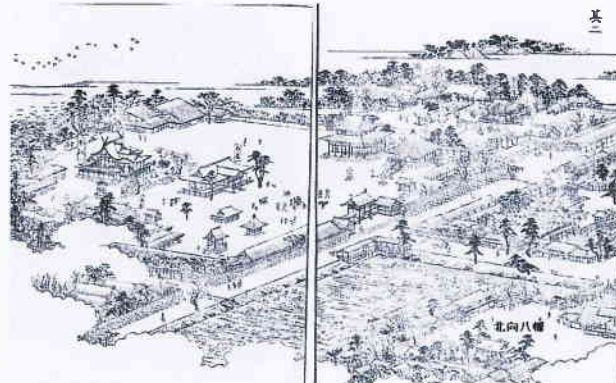
- ▶ 上方落語の祖ともいべき米澤彦八の名を残そうと、5代目、6代目の笑福亭松鶴が建碑に尽力しますが、実現しないうちに他界されました。
平成2年(1990)9月5日、笑福亭松鶴の5年忌に、笑福亭仁鶴を筆頭に一門の人達が、ゆかりの地である生國魂神社境内にこの碑を建てることとなりました。



28 生國魂神社

天王寺区生玉町13-9

- ▶ 神武天皇が、難波の津に上陸し、国土の神である生島神・足島神を現在の大坂城付近に祀ったのが始まりと伝えられています。
織田信長の石山本願寺攻めの際、社殿は焼失します。
豊臣秀吉が大坂城築城の際、現在の地に移され、豊臣秀頼の寄進により社殿が造営されました。
大坂夏の陣で再度焼失しますが、第2代将軍徳川秀忠の命により再建されました。



【水戸藩士ゆかりの地】

29 水戸藩士 川崎孫四郎 自刃の所
30 笠間藩士 島 男也 旧居跡

天王寺区生玉町6
(生國魂神社前にある生玉公園内)

- ▶ 安政7年(1860)3月3日、江戸の桜田門外で、水戸、薩摩の脱藩浪士により大老 井伊直弼が暗殺されるという大事件が occurred ましたが、このとき、江戸だけではなく大坂でも並行して、水戸、薩摩藩を中心とした挙兵計画がありました。挙兵を計画したのは、高橋多一郎、川崎孫四郎ら水戸藩士です。ところが、薩摩藩が慎重策に変じ、計画が進まなくなったところで、幕吏(大坂町奉行所)に漏れてしまいます。桜田門外の変後、間もない万延元年(1860)[※3月18日より改元]生國魂神社境内にあった笠間藩士 島 男也宅に水戸藩の志士たちが協議のため集まっているところを幕吏が取り囲みます。川崎孫四郎は自刃し死に切れないでいるところを捕らえられ、翌日死亡します。島 男也は捕らえられた後、江戸の伝馬町の牢に送られ、文久元年(1861)11月5日牢死します。そのほか、高橋多一郎、庄左衛門父子は、囲みを破り四天王寺まで逃れますが、ついに観念し、同寺内で自刃します。(高橋父子の墓が四天王寺境内にあります)佐久良東雄も捕えられ、江戸伝馬町の牢獄に送られます。幕府の飯は食えぬと牢で断食を貫き、同年6月獄死します。



31 赤穂藩主 浅野内匠頭長矩墓所(吉祥寺) 天王寺区六万休町1-20

- ▶ 寛文7年(1667)、浅野長友の長男として江戸に生まれました。寛文11年(1671)3月、父・長友が藩主に就任して3年後の延宝3年(1675年)1月19日に長友は死去します。同年3月25日、長矩が9歳で播州浅野家の家督を継ぎ、第3代藩主となりました。同年4月7日、第4代將軍徳川家綱に拜謁。延宝8年(1680)8月18日に従五位下に叙任し、さらに21日には祖父・長直と同じ内匠頭の官職を与えられました。天和3年(1683)2月、勅使饗応役を拝命し、高家吉良上野介義央が勅使饗応指南役として付きましたが、無事に役目を果たします。しかし、元禄14年(1701)2月4日、2回目の勅使饗応役に任じられました。3月14日は幕府の行事の中でも最も格式高いと位置づけられていた日でしたが、儀式直前、江戸城本丸大廊下(通称松の廊下)において、長矩が吉良上野介義央に対して脇差でもって刃傷に及びました。第5代將軍徳川綱吉は朝廷との儀式を台無しにされたことに激怒し、長矩の即日切腹と赤穂浅野家五万石の取り潰しを即断します。身柄は田村右京大夫(陸奥一関藩主)の屋敷に預けられ、同屋敷の庭先において、夕方、幕府検死役の立会いのもと、切腹しました。享年35。遺骸は高輪泉岳寺に埋葬されました。



吉祥寺は、大坂における浅野家の菩提寺で、参勤交代の際はこの寺に立ち寄ったといわれます。

32 赤穂義士四十七士墓所(吉祥寺)

天王寺区六万休町1-20

- ▶ 江戸城松の大廊下で浅野内匠頭長矩が吉良上野介義央に対して刃傷に及び、長矩は即日切腹、藩はお取り潰しの裁断に対し、吉良上野介義央には何の咎めもありませんでした。
家老大石良雄(内蔵助)以下、赤穂藩士の多くは幕府の裁定を一方的なものであると不満を持ちました。
元禄15年12月15日(1703年1月31日)、47人の赤穂浪士は吉良上野介義央の屋敷に討ち入り、吉良上野介義央を討ち果たすことに成功しました。



33 赤穂義士 大石内蔵助良雄像(吉祥寺)

天王寺区六万休町1-20

- ▶ 赤穂藩浅野家の家老。忠臣蔵の主役・指導者として有名です。
藩主浅野長矩が切腹、領地没収となると、家中を統率して浅野家再興を図ります。
その望みが絶たれた翌年、赤穂義士の首領として、主君浅野長矩の敵・吉良上野介義央を討ちました。大石自身は、幕法違反として肥後藩お預けとなり切腹しましたが、浅野長矩の弟大学が五百石の旗本になり浅野家再興は別の形で実現することになります。



34 赤穂義士四十七士像(吉祥寺)

天王寺区六万體町1-20

- ▶ 討ち入り300年祭にあたる平成14年(2002)、大石内蔵助良雄を含む四十七士の石像が建立されました。赤穂義士四十七士は次のとおりです。

大石内蔵之助良雄 大石主税良金 勝田新左衛門武堯 大石瀨左衛門信清 前原伊助宗房 潮田又之丞高教
 間十次郎光興 三村次郎左衛門包常 間喜兵衛光延 武林唯七隆重 間新六光風 杉野十平次次房 吉田忠左衛門兼亮
 吉田沢右衛門兼貞 茅野和助常成 菅谷半之丞政利 貝賀弥左衛門友信 不破数右衛門正種 間瀬久太夫正明
 間瀬孫九郎正辰 神崎与五郎則休 横川勘平宗利 小野寺十内秀和 小野寺幸右衛門秀富 千馬三郎兵衛光忠
 倉橋伝助武幸 大高源五忠雄 寺坂吉右衛門信行 岡野金右衛門包秀 矢頭右衛門七教兼 村松喜兵衛秀直
 村松三太夫高直 早水藤左衛門満堯 堀部弥兵衛金丸 堀部安兵衛武庸 矢田五郎右衛門助武 奥田孫太夫重盛
 奥田貞右衛門行高 木村岡右衛門貞行 中村勘助正辰 近松勘六行重 原 惣右衛門元辰 岡嶋八十右衛門常樹
 片岡源五右衛門高房 赤埴源蔵重賢 富森助右衛門正因 磯貝十郎左衛門正久



吉祥寺の門と外壁

35 戦国武将 蜂須賀小六(正勝)顕彰之碑(吉祥寺)

天王寺区六万體町1-20

- ▶ 吉祥寺境内には戦国武将「蜂須賀小六(正勝)顕彰之碑」があります。

蜂須賀小六(正勝)
 織田信長、のちに豊臣秀吉に仕え、永禄9年(1566)墨俣一夜城の構築に尽力します。
 高松城水攻めでは開城に尽力。豊臣秀吉の中国大返し(明智光秀追討)の名脇役として活躍しました。
 秀吉の参謀としてその名も高く、阿波一国を子、家政に譲り、自らは最後まで秀吉の側近くで仕えました。



秀吉と小六出会いの像(愛知県岡崎市)

